

リハビリテーション科

1. 診療科としての特色

- ✓ 大学病院では、極急性期及び急性期のリハビリテーション治療を学ぶことができます。
- ✓ 日本リハビリテーション医学会の認定研修施設であり、リハビリテーション専門医研修も可能です。
- ✓ 現在は医師 4 名で、集中治療、ER 病棟から一般病棟、緩和ケア病棟において、運動器、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器、がん、廃用症候群等多くのジャンルのリハビリテーション診断、リハビリテーション治療を行っています。

● 研修目標

- ✓ 適切な問診、病歴聴取、運動および神経学的所見の診断、計画書等説明書類の作成を行い、診療記録に適確な記載ができること
- ✓ リハビリテーション医療対象患者の障害受容、心理状態への配慮したコミュニケーション能力を身に付けること。
- ✓ リハビリテーションのチーム（医師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、臨床心理士、看護師、義肢装具士、ソーシャルワーカーなど）の一員として他の医療スタッフの立場を尊重しつつ、協調して診療にあたること（協業としてのチームワーク）。
- ✓ 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけること。
- ✓ 心身の障害のある患者・認知症のある患者にも十分な倫理的な配慮をしながら患者中心の医療を実践できること。
- ✓ 疾患の状態、社会背景から経験症例を通して臨床の現場で患者の障害像を正しく認識できること（リハビリテーション診断）。
- ✓ 医療安全の重要性を理解し事故防止に配慮するとともに、もし事故が起きた場合の対応がマニュアルに沿って素早く実践できること（リハビリテーション中止基準の理解）。
- ✓ 病態及び障害に応じて、予後を予測し、適切なリハビリテーション治療を処方できること。
- ✓ 障害学から患者の健康状態とともに心身機能、身体構造をとらえ、身体因子と環境因子を考慮し、活動や社会参加を呈示できること。